

全国協議会 ニュース

2010年2月1日発行
第212号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

緊急！ 支援を求め!!

佐藤さち子患者支援基金が 3度目の休止危機

全国協議会の患者支援事業の柱でもある「佐藤さち子患者支援基金」は、これまでに皆様のご理解とご協力のおかげで150件以上の給付を行なってきました。

特に近年は、百年に一度と言われる大不況の影響もあり、経済的困窮により給付申請をされる患者さん・ご家族が例年より増えていきます。しかしながら、基金を支える寄付金も思うように集まらず、このままでは基金枯渇により、3度目の休止をせざるを得ない状況になってきました。高額な治療費・保険外の検査や薬代などにより不安を抱えていらっしゃる患者さんやご家族の状況を考えると、休止という事態はなんとか回避しなければなりません。

患者さんやご家族の経済的苦痛が少しでも軽減され、安心して治療に専念できるように、佐藤さち子患者支援基金の現状をご理解いただき、ご寄付にご協力のほどよろしくお願いたします。

給付金を頂き、とても感謝しております。妻は妊娠中に白血病とわかり、治療をしながら無事出産。移植するまで1年5か月の間、私は子供も見ながらの生活で思うように仕事が出来なかつたこともありました。働いても、働いてもお金足りない生活が続く、無事移植を迎えることが出来るのか、不安でした。私達のような患者さんやご家族がまだ沢山居るのではないかと、思っています。皆さんの支援があれば、たくさんの方が救われると思います。私も基金で助かった一人です。どうもありがとうございました。(20代男性)

給付をさせていただいた患者さんからの手紙

この度は、基金を給付して頂き、誠にありがとうございました。明日をどうして生きようかと思っていた矢先、支援基金をいただき、何とお礼を申しあげてよいやら、感謝の気持ちで一杯です。お蔭で息子の病氣も快方に向かい、退院後の生活のための転

新体制を担う理事より皆様へ

菅 早苗 (再任)



新体制になって早半年が過ぎようとしております。昨年の「10,000例&5,000例ありがとうキャンペーン」は全国の加盟団体の皆様のご協力で無事に終えることができました。

そして来年度は全国協議会設立20周年を迎えます。記念イベントに向かって理事会では活発な協議が進められてお

小川 真理 (再任)



今回、3期目の理事を務めさせていただきますことになりました。小川です。

心からのご寄付に 感謝申し上げます

12月19日～1月19日

榎ダクトコーポレーション	現金	10,000円
エグゼキューブ(株)	現金	12,250円
SDA多摩永山キリスト教会 (小澤洋介クリスマスチャリティコンサート)	現金	34,250円
SDA横須賀キリスト教会 (小澤洋介クリスマスチャリティコンサート)	現金	34,000円
鹿児島市立吉田南中学校 水之浦萌芽	現金	14,413円
山路 陽子	現金	200,000円
千葉 洋和	現金	3,000円
山田 康博	現金	9,880円
青柳 年和	現金	2,000円
大森 浩	現金	5,000円
鈴木 純子	現金	1,340円
匿名	現金	5,000円
匿名	現金	2,000円
匿名	現金	30,000円
匿名	現金	1,050円
匿名	現金	9,501円

●白血病患者支援基金

榎天山 (楽天)	現金	19,368円
やきとりおばこ	現金	1,200円
榎ウエタ薬品	現金	60,422円
榎クスのアオキ	現金	475,042円
伊東屋	現金	2,913円

●佐藤さち子患者支援基金

箱根駅伝宮ノ下募金箱	現金	74,430円
鹿児島市立吉田南中学校 松下幸濃	現金	14,400円
会津ユネスコ協会	現金	20,000円
土肥 敏朗	現金	10,000円
松野 隆一	現金	12,000円
樋口 勇一	現金	10,000円
竹田 幸子	現金	100,000円
鈴木 裕子	現金	100,000円 (敬称略)

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会

2009年度賛助会員

平野 朋美	(12月19日～1月20日)	2,000円 (敬称略)
-------	----------------	--------------

お詫びと訂正

前月号にて医療用コットンキャップの会費より佐藤さち子患者支援基金へいただいたご寄付金額が現金200,000円と掲載されておりましたが、正しくは30,000円の誤りでした。訂正させていただきますと共に深くお詫び申し上げます。

各地の 写真より

鹿児島 小さな歩みが明るい未来に 中学生の体験学習

12月17日、鹿児島市立吉田南中学校2年生の皆さんの、一日体験学習が実施されました。「命のボランティアコース」を選択した9名の生徒さんに私から骨髄バンクのお話をさせていただきます。その後、近くのスーパーで行われたティッシュ配布と募金活動のお手伝いをいたしました。

会津 両親の愛を映す 「さつと」の笑顔「展開催

生徒さん達が手作りの募金箱を持って戸惑いながら始めた呼びかけは、時間が経つにつれて声が大きくなり、素敵催させていただく形で、15年前から毎年、骨髄バンクパネル展を開催しております。



今年、石巻(宮城)の小野夫妻のご厚意により、白血病のため3歳で亡くなられた息子さん(さつと君)の写真パネルをお借りし、12月17日～20日まで会津若松市文化福祉センターで「さつと」の笑顔「パネル展」を開催しました。

各地のたよりを 写真を添えて お寄せください。

な笑顔も見られるようになりました。終了する頃には、小さなお子さんを連れてお客様を荷物まで運ぶお手伝いをする姿も見られました。

温かな人の心に触れ、自分以外の誰かのために一歩踏み出す勇気を得た生徒さんたち。まっすぐできれいな瞳がとて印象的な一日でした。(宮田)

写真を見てホッとしたのは、笑っている顔が多いこと。「さつと」の笑顔の意味がわかりました。こちらに微笑みかけている顔の裏に、とても辛い治療があつただろうにと、じつとみつめてしまいました。そしてファインダーを通したご両親の暖かいまなざしを感じ、胸が熱くなりました。

ほんの数日間でしたが、さとし君もたくさんのお友だちが会いにきてくれて、楽しかったことでしょう。(青木)

お譲りください「書き損じ・使い残しがき」

皆様のお手元に官製はがき(郵便はがき・年賀はがき他)の書き損じや使い残しはございませんか?

それらは、郵便局で切手等への交換が可能です。事務局では皆様からお送りいただいたはがきを通信費として活用しています。

「書き損じ」というのは、片面あるいは両面に文字が書いてあつたり印刷されていても、投函する前のもなら全て該当します。もちろん、未使用の「使い残し」は新旧、額面に問わず活用可能です。

また、お年玉等のくじが当選している書き損じはがきで



も、郵便局で景品を受理した後に送りいただけますし、何年経つたものでも大丈夫です。

随時受け付けておりますので、是非ご協力をお願いいたします。

職場や学校で集めていただきましたら幸いです。

※古切手(使用済み切手)は換金する手段がありませんので、受け付けておりません。

【送付先】
東京都新宿区愛住町23-1
Woody21 9階
全国協議会事務局

患者さんへのエールをのぼりにこめて 今年も箱根駅伝でボランティア始め

2003年に全国協議会として取り組みを始めて8回目となった、第86回東京箱根間往復大学駅伝競走、いわゆる箱根駅伝での啓発活動。今年もテレビでの中継をご覧になった全国の皆さんにも、真っ赤な「骨髄バンク」ののぼりを目にする機会が多かったのではないかと思います。

全国協議会メンバーと共に、東京と千葉の会のメンバーが、恒例となった宮ノ下や田町沿道で活動しましたが、それに加えて、2006年から協力くださったというブルデンシャル生命保険の社員やご家族の皆さんが、少しでも多く目につけるようにと今年も更に作戦を練って各所で活動してくださったことが功を奏したようです。

「お正月も病室で過ごさねばならない患者さんに、テレビに映し出される『骨髄バンク』ののぼりでエールを送りたい」という思いが、多くの患者さんに届いていることでしょうか。

今年も活動の機会を与えてくださった関東学生陸上競技連盟様、のぼり旗の設置にご協力いただいた鈴廣様、箱根消防署様、恵明学園様、沿道でののぼり持ちに奮闘されたブルデンシャル社関係の皆様やボランティアの皆様、そして宮ノ下での募金活動に協力してくださったすべての皆様、あらためて感謝を申し上げます。

各所での活動に参加された方々のメッセージを紹介します。

◆御成門

ブルデンシャル生命
首都圏第五支社 志村潤さん
ブルデンシャル生命が箱根駅伝ののぼり立てへの協力を始めてから、今年で5年目になる。社内でも恒例の行事として定着してきたが、今年初参加の私が



首都圏第五支社をまとめることになった。快晴の正月の朝、凛と立つ東京タワーの前に50人が集まった。例年テレビで見ていると、のぼりが映るのはほんの一瞬だ。御成門付近はスタートして5〜6分の所なので、選手は集団のまま駆け抜けていく。今年も少しも長く映りたいと、皆に呼びかけた。「私たちが応援するのは駅伝選手だけではなく、テレビを見ていない患者さんにも声援を送りたいです！今年も5m間隔で立ってください！」いよいよ選手が来た。やっぱ早い！ちゃんと映ったのか？ 携帯のテレビで見ている大谷さんが、笑顔で駆け寄ってきた。「リーダー、作戦成功！しっかりと映っていたわ



私はいくつと赤い骨髄バンクののぼりを天に突き出す。通りの声援が走者を応援するならば、走者の引力に引かれてひらひらとはためくのは、病室の患者さんにエールを送っているのだから。つらい病室と戦うとき、



宇宙の片隅に自分がたった一人取り残されているような、そんな孤独を感じることがあると思う。テレビに映されたこののぼりが、患者さんのその寂寥を癒せば本望である。しかもランナーと観衆のパワーは、人々に四肢の冷たさを忘れさせるくらいだ。このエネルギーがのぼりを通じて病室に届くならば、悪細胞を攻撃しないはずも無いだろう。

「帰宅後ビデオを見ると、他の場所も例年以上に赤いのぼりが目立っていた気がする。全社で300人以上がのぼりを立てたそうだ。私も今年は清々しい新年をスタートすることができた。来年もまた是非参加したいと思う。」

◆宮ノ下

全国協議会 野平晋作
1月2日、陸月の冷たい空気がとは裏腹に、宮ノ下は熱気に包まれた。初参加の私は、沿道の人山から発せられる声援と目の前を快走する選手に圧倒される。選手の年齢は二十歳前後。顔にはまだ幼さが残っているが、その姿は凛々しさそのものである。逃してしまつたが、来年は是非とも頂きたいと思っている。



もし箱根駅伝を実際に見に行く機会があるのなら、是非とも宮ノ下での観戦をお勧めしたい。というのも、宮ノ下では商店街の皆さんが精力的に箱根駅伝を盛り上げているからだ。おまけに、名物シチューパンまで頂戴できる。私も今年はチャンスをと

◆田町

千葉骨髄バンク推進連絡会 西島一恵さん
お正月の伝統行事 第86回箱根駅伝として骨髄バンク啓発活動。2日の往路はテレビで観戦。今年も骨髄バンクの真っ赤なのぼりがよく目につきました。この日参加された千葉の会の笹森さんからは「選手が丸と通ります。お花や園芸関連品に囲まれた募金箱は、従業員さんとお客さんに見守られながら、地道に骨髄バンクPR活動に一役買っています。」



それをご縁で、伊東屋さんにはその後もずっと、チャンスと募金箱を設置していただいております。お花や園芸関連品に囲まれた募金箱は、従業員さんとお客さんに見守られながら、地道に骨髄バンクPR活動に一役買っています。



伊東屋さんが会長を務める、船橋駅周辺の商店会とデパート等の大型店舗で構成される連合会「アイラブふなばし」が行う、

「3日の応援には孫二人と共に夫婦で参加し、のぼりを持ちました。ゴール近くで、かなり苦しいと思うのですが、平然と走り抜けていく選手に感動しました。」



参加された二人のお孫さんからも感想が届きました。

小学校4年生 高橋琴音ちゃん
1月3日、田町で箱根駅伝を見ました。
1番の人と、2番の人の差がすごくあって、びっくりしました。
最後の人はとても苦しそうな顔をしていましたが、その人以外はふつうの顔をしていて、「苦しくないのかなあ」と思いました。みんな思ったより速くてびっくりしました。
寒かったけど行って良かったです。

小学校2年生 高橋駿輝くん
1月3日、箱根駅伝を見た。
東洋大学がだんとつ1位でした。9位と10位があらそつていておもしろかったです。10位の人の顔がほかの人よりきつ顔をしていました。
はじめて見たから楽しかったです。

ごんにちは募金箱 その43

益裁園芸総合センター

伊東屋(千葉船橋市)
伊東屋さんは船橋駅前商店会の中央に位置する園芸店です。船橋駅前商店会は、2006年の「ボランティアの集いin船橋」開催時に、全国協議会ロゴマーク入りのフラッグを作成して街中に飾りつけ、ポスター掲示や募金箱設置で全国からのボランティアを温かく出迎えてくださいました。

エコバッグキャンペーンやジョイ&ショッピング等のイベント会場では、毎回のよう骨髄バンク啓発活動を行わせていただいております。
船橋大会で蒔かれた骨髄バンクへの理解のタネは、芽を出し、葉をつけ、着実に大きく育っています。さすが、街の園芸店、伊東屋さんです。今年も、様々な企画と一緒に活動させていただきます。伊東屋さんバンザイ！アイラブふなばしバンザイ！ (黒川)



骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

●平成21年の登録者数・移植数
平成21年(1~12月)の新規登録者数は34,687人で、12月末日現在の有効登録者数は353,361人(累計:451,884人)となりました。新規登録者数は平成20年に比べ3,794人少ない結果となりましたが、平成20年6月にACCのキャンペーンが休止となり、マスコミへの露出が減少した影響も考えられます。
また、平成21年の移植数は1,216件(国内ドナー→国内患者:1,199件、海外ドナー→国内患者:5件、国内ドナー→海外患者:12件)で過去最高となりました。平成20年と比べても100件を超える増加となっています。

＜事例の概略＞
患者さんの病状変化により前処置開始前に移植延期の希望が出されましたが、採取施設やドナーの方都合により採取延期の日程調整ができなかったため、ドナーの方については予定どおり採取を実施し、凍結してから、後日、移植を行いました。
1例目は前処置開始2日前、2例目は3日前に患者さんの病状が変化し、採取日程の再調整ができなかった事例でした。
骨髄バンク事業発足以来、ドナーの方への倫理的配慮から、使用されない可能性がある骨髄液の凍結は極力避けるべきであるという方針で運用してきました。しかし、そうした中、今回の事例が生じていることから、今後どのような場合に凍結を実施するのが適切かについて関係諸機関委員会で検討を行い、対処していくこととしました。現時点で検討を要する主な事項として考慮しているのは、以下のとおりです。
・患者さんにとって最善の時期に移植が可能となるようにする
・ドナーの方の善意でいただいた骨髄液が、できる限り無駄にならないような条件
・ドナーの方への倫理的配慮として、ドナーの方への

説明とその同意のあり方について
・凍結の安全性を確保するために施設に求められる条件
●最終同意確認後にバックアップドナーが0人になる患者さんへの対応について
これまで、ドナーの最終同意が確認された時点で、同時進行していたドナーのうち確認検査を実施していないドナーは、コーディネートを終了することになっていました。しかし、このルールによりバックアップドナーが0人になってしまう患者さんが散見されるため、術前健診結果等でドナーがコーディネート終了となった場合に備え、主治医からの希望があれば、そのまま他のドナーのコーディネートを進めることができ

ようにいたしました(昨年12月14日から)。
●PBSCTの導入について(来年度予算・診療報酬の状況)
平成22年度の補助金については、今年度より4千万円多い4億8千万円の要求を行ってまいりました。増加分はPBSCT導入に伴うシステム構築費で、厚労省では認められ財務省で検討される予定でしたが、政権交代で見通しが不透明になり、診療報酬の改定と併せ、民主党副幹事長への陳情も行い実現を目指しました。結果として、システム構築費については要求が認められませんが、PBSCTに関する診療報酬については、診療報酬全体の増額に伴って実現の可能性はあるという状況となっています。

◆日本骨髄バンクの現状(平成21年12月末現在)

	11月	12月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,110	2,816	353,361	451,884
患者登録者数	243	221	2,476	29,223
骨髄移植例数	126	107	-	11,285
20歳未満ドナー登録者	-	237	11,126*	-
51歳以上ドナー	234**	101**	16,666**	-

■12月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム/714人、献血併行型集団登録会/1,990人、集団登録会/13人、その他/99人

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
*1) 17年3月~ *2) 51歳以上ドナーの延長数 *3) 51歳以上ドナーの新規登録数 *4) 17年9月~